

栗林公園掬月亭耐震改修 について

目次

1. 掬月亭について
2. 耐震改修について
3. 基本設計における耐震改修案
4. 今後のスケジュール案

1. 掬月亭について

17世紀後半に建てられたといわれ、「水を掬（すく）えば月が手にある」という中国唐代の詩の一節から名付けられた。



園内のどこからでも出入りができるよう、四方に正面がある数寄屋造りの建物で、その名の由来の通り低く抑えられた床に座ると、まるで船上から手を伸ばして湖面に触れることができるかのような雰囲気がある。

園内にある茶屋風建物の中で最も大きいため「大茶屋」とも呼ばれ、歴代藩主はこの建物をこよなく愛したと言われており、今も抹茶や煎茶を御菓子と一緒に楽しんでいただける場所である。

2. 耐震改修について

現状

お茶席の提供などで入園者に広く開放。

和船と並ぶ栗林公園の人気施設。

毎年、中秋の名月には琴・三味線の演奏もある観月会を開催。

課題

本県においても、南海トラフ地震などによる地震被害が想定。

これまで掬月亭の耐震改修は行われていない。



掬月亭の保存修理工事に併せて耐震改修を実施

3. 基本設計における耐震改修案

掬月、初筵観、初筵観北棟の使用状況、建物への変更箇所の有無、建物周辺状況等を検討した。

（耐震改修案）

- ・ 構造用合板を主とした改修で、壁や襖の一部を構造用合板の全面壁に変更するほか、掬月南縁側に鉄骨柱2本を設置する。（詳細は、別紙「掬月亭耐震化改修案」）
- ・ ただし、鉄骨柱については、南湖からの景観を考慮してなるべく目立たない工法を検討することとし、実施設計において、この耐震改修案をベースとして詳細な設計を進める。

4. 今後のスケジュール案

- 今 回：実施設計基本方針の説明
- 9月頃：実施設計進捗により得られた耐震改修案の提示、意見聴取
- 11月頃：委員意見を踏まえた耐震改修案の提示、意見聴取

※これらを踏まえ、来年3月末に向け実施設計
をとりまとめる